

神との交わりによる輝き

出エジプト記三四章29～35節

モーセはシナイ山から下りた。山を下りるとき、彼は二枚の証しの板を手にしていた。モーセは、主と語るうちに彼の顔の肌が光を帯びていたことを知らなかった。(29)

四十日間の神との交わりを終えて山から下ってきたモーセに、一つの大きな変化が表れていました。その顔が光を放って輝いていたということです。それはモーセの内側から発せられた光ではなく、神の輝きを反射したところの輝きでした。ちようど月が太陽の光を反射して輝くように、神と親しく交わるうちに、神の強烈な輝きがモーセの顔を照らし、交わりを終えてもその光が消えないほどでした。モーセ自身はそのことに気づきませんでした。周りの人々はその変化にすぐに気づきました。神との交わりによって、モーセの顔が照り輝いているのだと。私たちが神との交わりを大切にしていくとき、モーセの顔が神の光によって照らされたように、神の栄光の輝きが私たちをも照らしてください。日ごとに、神の御顔を仰ぎつつ、信仰の歩みを続けていきたいと願います。